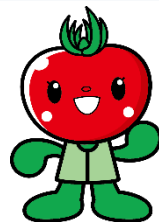


北本市版スーパー・シティプロジェクト 地域まちづくり計画



令和6年3月

(令和6年9月更新)

北本市

取組の概要

まちづくりにおける課題

人口減少とともに少子高齢化も進行しており、高齢者の増加と生産年齢人口および年少人口の減少が続くことが想定される。そのため、総人口の減少だけではなく、年齢構成の変化を見据えて、行政サービスや財政運営の見直しを進める必要がある。また、昭和40年代から50年代までの人口増加期に集中的な人口流入があった地区では高齢化が急速に進んでいるのと同時に年少人口の減少も進んでいるため、地域ごとの実態を踏まえてこれからのまちづくりに取り組む必要がある。

まちづくりの方向性

高齢者の増加と生産年齢人口および年少人口の減少が続く想定の下、人口の変化を捉えたまちづくりに取り組む。また、住民の年齢構成の変化を見据えて、行政サービスや財政運営の見直しを進めることで、人口減少への対応を図る。

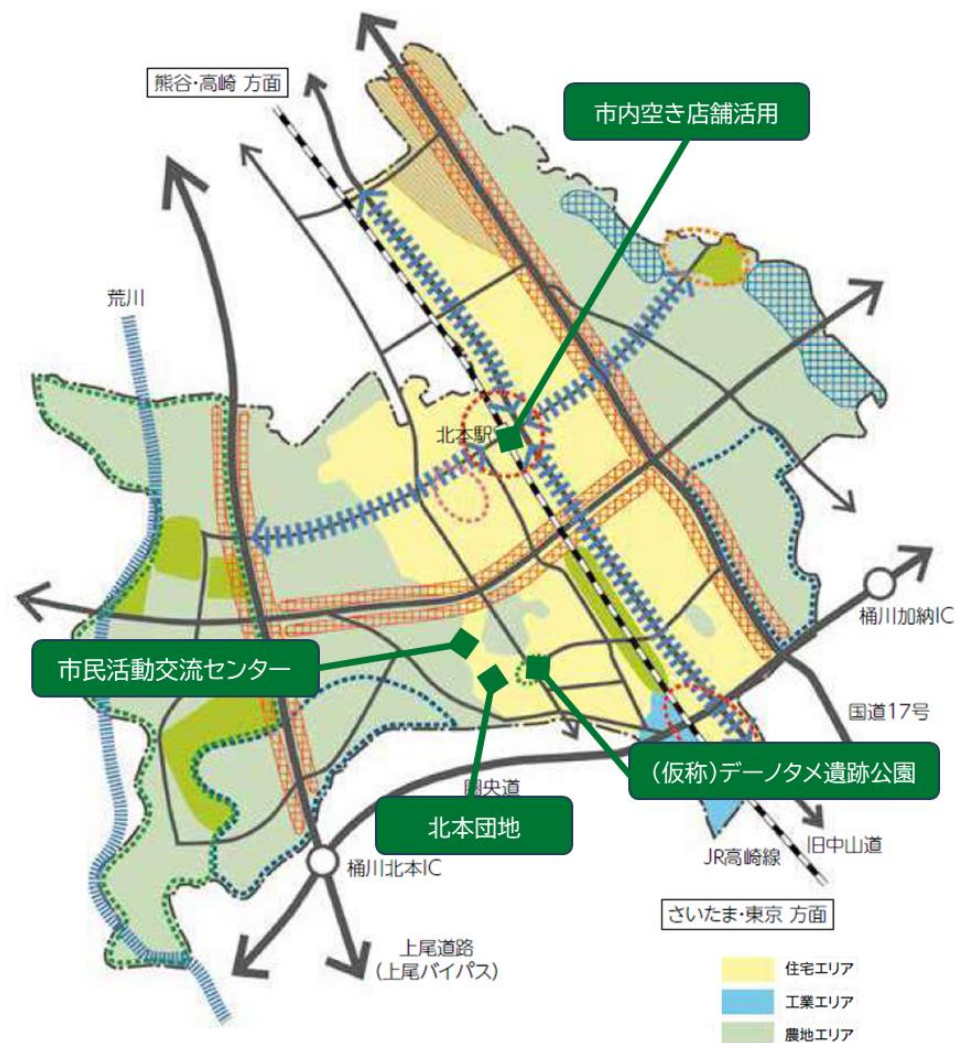
人口規模に見合う本市ならではの生活の形を見出し、住民幸福度の向上を重視した市政運営を行う。

他の計画における位置付け

- 第五次北本市総合振興計画後期基本計画
- 北本市都市計画マスタープラン
- 北本市緑の基本計画
- 北本市公共施設等総合管理計画
- (仮称)市民活動交流センター整備基本計画

対象地域の位置及び区域

北本市全域



地域の現況

人口・世帯の状況

本市の総人口は、平成17年の71,241人をピークに減少傾向に転じ、直近の令和5年には65,751人となり、約8%減少している状況である。

世帯数は、平成17年に26,073世帯であったが、令和5年には30,308世帯に増加している。

年齢3区分別人口を見ると、年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)が占める割合が大きく減少する一方で、老年人口(65歳以上)が占める割合が年々増加している。特に北本団地を含む公団地域の少子高齢化が顕著であり、市全体の高齢化率より10%以上高くなっている。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると令和27年には総人口が47,518人となる見込みであり、高齢化率は令和2年の32.4%から令和27年には46.0%まで上昇する見込みである。

開発の状況

北本市は、高崎線を中心として比較的コンパクトな市街地が形成されている。北本駅周辺は、市民の生活を支える中心的な商業地が形成されている。近年、商業施設の撤退や空き店舗等の非効率な土地利用が発生しているが、一方で駅前広場の改修やホテルの進出といった、活性化の契機となる取組も進められていることから、鉄道駅周辺という利便性を活用し、市民生活を支える商業等の生活機能の強化や中心市街地の活性化が必要である。

地域交通の状況

本市は、国道17号と中山道を軸とした道路交通体系となっている。近年、圏央道が開通し、上尾道路が事業化されたが未整備の幹線道路も残されている状況である。生活道路については、より利便性の高い市街地とするための整備、改良が必要となっている。

また、本市の公共交通は、JR高崎線北本駅を起終点とした路線バスが、市内各地域を連絡するネットワークとなっており、路線バスを補完する公共交通として、平成23年度よりデマンドバスを運行している。

地域資源

本市は、市内全域が埼玉県初の森林セラピー基地として認定されている緑豊かなまち。緑と暮らしの距離が近いのもまちの特徴で、公園や雑木林、農のある暮らしなどの風景が日常にあふれ、四季折々に緑がまちを彩っている。

また、本市は大宮台地の最高地点に位置し、中でも一番標高の高い場所は海拔33mとなっている。荒川との標高差が大きいため、台風等による洪水の危険性は低く、また、地震の計測回数も近隣市と比べると少ないため、災害リスクの少ない安全なまちと言える。関東最大級の環状集落であるデーノタメ遺跡など、縄文時代の遺跡が多数発見されていることから、古くから定住の地として選ばれていたことが分かる。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

- ・人の近接によりまちの活力を生み出すこと
- ・暮らしやすさを追求した生活基盤の充実
- ・「“みどり”豊かで災害に強いまち」のロールモデルに！

市街地の雑木林、空き店舗や空き家等の都市ストック、市民活動交流センター等を活用して、住民が集い、つながれる文化水準の高いコミュニティスペースの整備等を推進し、住民の日常生活を豊かにする。

デジタル技術を活用して、交通手段や交通安全対策の充実を推進し、暮らしやすい生活基盤を構築する。

良好な地盤の大宮台地に、防災機能を持つ住宅とともに、雑木林や谷津等の豊富な自然環境を活かしたグリーンインフラストラクチャーの整備等を推進し、地域の防災機能を強化する。

推進体制

まちづくりのコンセプトを実現するため、官民が連携して着実にプロジェクトを推進していく。

【連携事業者等】

地域コミュニティ委員会、合同会社暮らしの編集室、UR都市機構、株式会社良品計画、株式会社MUJI HOUSE、丸建つばさ交通株式会社、川越観光自動車株式会社、島田観光バス株式会社、熊通タクシー株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、MS&ADインターリスク総研株式会社

事業全体の概要

【コンパクト】つどう、つながる人の発意で成長するコミュニティスペースづくり

- ・旧栄小学校校舎を活用した市民活動交流センターの整備
- ・旧栄小学校校庭を活用した新中央保育所の整備
- ・北本団地活性化プロジェクト等の推進
- ・(仮称)デーノタメ遺跡公園の整備
- ・市内空き店舗等活用の推進

【スマート】デジタル技術を活用した“住み続けたいまち”づくり

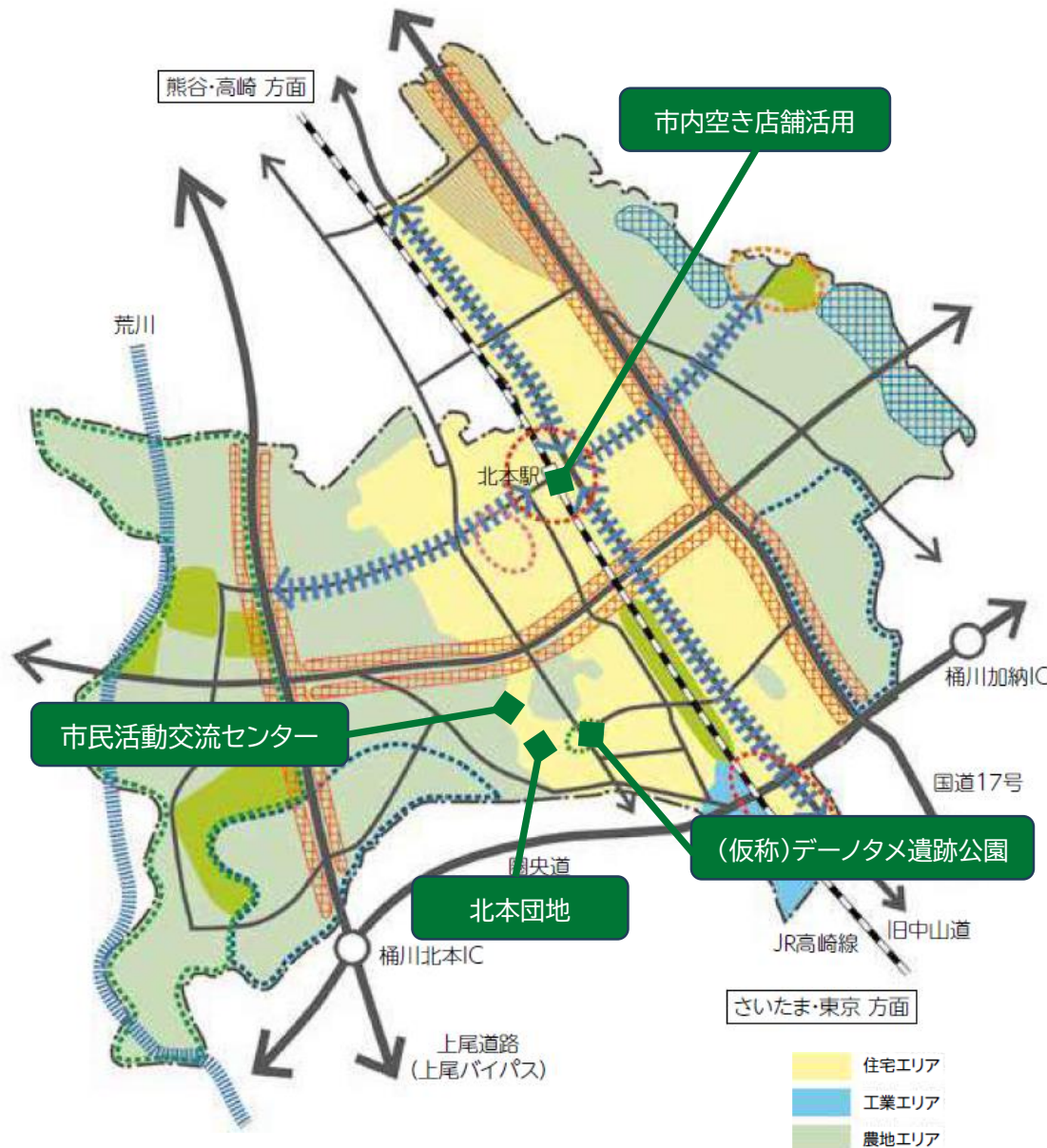
・デジタル技術を活用し、バスの運行状況をリアルタイムで配信

- ・AIを活用したデマンドバスの運行
- ・AIを活用した小・中学校通学路の事故発生リスクの可視化
- ・防災機能を持つ災害に強いスマートタウンの整備

【レジリエント】“みどり”とともにあるレジリエントな地域づくり

- ・雑木林や公共施設を活用したグリーンインフラストラクチャーの整備
- ・太陽光パネルをはじめとした災害時でも電源の途絶えない再生可能エネルギー機器の設置補助

北本市版スーパー・シティプロジェクト 計画図



“みどり”とともにあるレジリエントな地域づくり

- ・ 雑木林等を活用したグリーンインフラストラクチャーの整備
- ・ 太陽光パネルをはじめとした再生可能エネルギー機器の設置補助



デジタル技術を活用した“住み続けたいまち”づくり

- ・ デジタル技術を活用した交通手段の充実
- ・ AIを活用した交通安全対策の充実

つどう、つながる人の発意で成長するコミュニティスペースづくり

- ・ 旧栄小学校の跡地を活用した、市民活動交流センター、新中央保育所の整備
- ・ (仮称)デーノタメ遺跡公園の整備
- ・ 北本団地活性化プロジェクトの推進
- ・ 市内空き店舗活用の推進



旧栄小学校の跡地を活用した市民活動交流センターのイメージ

<全体コンセプト>

楽しみと生きがいのある暮らしを応援する、未来につなぐ緑ある交流拠点

生涯学習をはじめとして、市民交流、勤労者福祉、市民活動支援、高齢者レクリエーション、教育センター、保健センター等の機能を集約。

新たな出会いや活動のきっかけづくりを応援する施設となることを目指している。

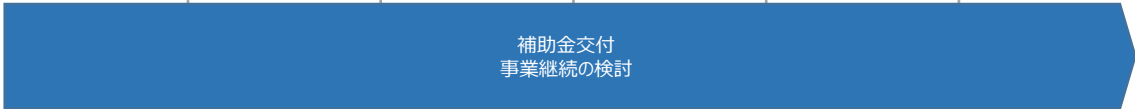


【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考	
			R6	R7	R8	R9	R10		R11以降
市民活動交流センターの整備	市	旧栄小学校の校舎を利用した市民活動交流センターの整備を行う。また、学習、交流メニューの作成を行う。	拠点整備	活用 拠点機能の強化					埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金を活用予定
新中央保育所の整備	市	旧栄小学校の跡地を利用し、新中央保育所の整備を行う。	活用						
北本団地活性化プロジェクトの推進 (ガバメントピッチによる官民連携)	市、民間事業者	ガバメントピッチによる官民連携により、地域コミュニティの強化を推進し、団地の関係人口増加を目指す。	実証	実装					埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助金を活用予定
北本団地活性化プロジェクトの推進 (マーケットの学校等)	市	マーケットの学校等を北本団地で開催し、地域のために行動したい人の“場”を創出する。	マーケットの学校などによる“場”の創出						
(仮称)デーノタメ遺跡公園の整備	市	遺跡の景観的特徴を生かし植生(雑木林)を整備し、コミュニティへの貢献を図るとともに、後世に残すべき重要な歴史遺産である遺跡を国指定遺跡として保護していく。	調査・調整・計画策定		整備				

【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考	
			R6	R7	R8	R9	R10		R11以降
市内空き店舗活用の推進	市	市内の空き店舗を活用して新たに創業する方に対し、出店にかかる経費の一部を補助することにより、空き店舗の使用促進や新たなビジネスの創出、市内の賑わいの創出、市内経済の活性化を図る。							



KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	最新値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
コンパクト	25歳から34歳までの女性mGAP	-27(令和4)	-23(令和5)	-18(令和7)	第五次北本市総合振興計画後期基本計画 mGAP(修正地域参画指標) 地域への「推奨意欲」、「参加意欲」及び「感謝意欲」の3つを数値化することで成果指標とする
コンパクト	地域活動に参加している市民の割合	34.2% (令和2)	23.8% (令和5)	35.0% (令和7)	第五次北本市総合振興計画後期基本計画
スマート	デマンドバス利用数	20,033件 (令和2)	22,943件 (令和5)	27,000件 (令和7)	第五次北本市総合振興計画後期基本計画
スマート	人口千人当たりの交通事故件数	2.00件 (令和2)	2.14件 (令和5)	1.70件 (令和7)	第五次北本市総合振興計画後期基本計画
レジリエント	市民一人当たりの都市公園面積	10.5㎡ (令和2)	10.6㎡ (令和5)	11.5㎡ (令和7)	第五次北本市総合振興計画後期基本計画
レジリエント	住宅用省エネルギー機器設置補助金交付件数	0件 (令和4)	46件 (令和5)	60件 (各年度)	機器の1つ設置が30件、2つ以上設置が30件を目標とする